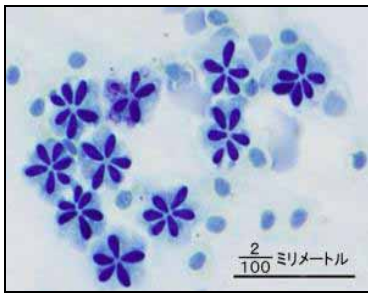


寄生虫性食中毒

平成 23 年、ヒラメの筋肉に寄生するクドア・セブテンpunkタータという寄生虫が食中毒病因物質として新たに加わりました。クドア・セブテンpunkタータは極嚢と呼ばれる構造を 6~7 個有するのが特徴です（写真 1）。本寄生虫はヒラメとイトミミズ等の環形動物との間で生活環が維持されていると考えられていますが、詳細は明らかになっていません。これまで海水魚・淡水魚から多くのクドア属が検出されていますが、現時点でヒトに対し病原性を示すことが明らかになっているのはクドア・セブテンpunkタータのみです。ヒラメを喫食後、4~8 時間経過してから一過性の嘔吐と下痢を引き起こします。

アニサキスはクジラ等の海棲哺乳類の胃で成虫になる線虫です。その虫卵は糞便とともに海中に産出され、オキアミ等の甲殻類に摂取された後、第 3 期幼虫に発育します。この幼虫を宿すオキアミ等が魚介類（魚やイカ）に摂取され、ヒトはこの第 3 期幼虫が寄生する魚介類の生食により感染します。症状は魚介類を生食し 1 時間~1 日後に起こる激しい胃痛と悪心・嘔吐が特徴で、症例の大半が胃アニサキス症を呈します。また、幼虫は腸壁に侵入して腸アニサキス症を、消化管を通過して消化管外アニサキス症を引き起こすこともあります。

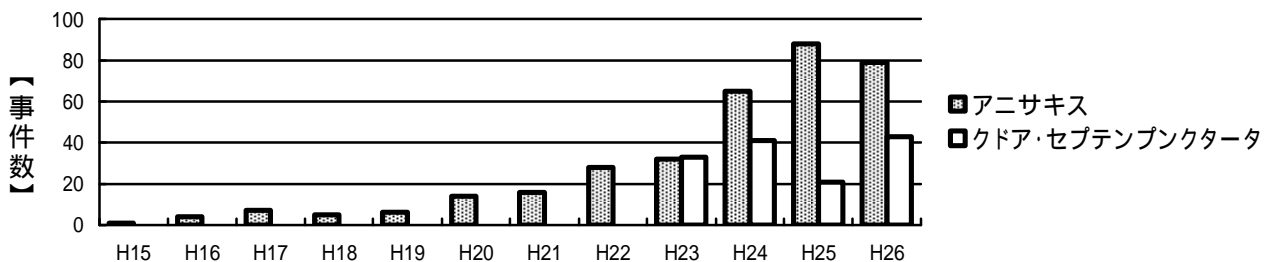
平成 26 年の病因物質別食中毒発生件数では、これら寄生虫による事件が上位を占めるまでになりました（表 1）。平成 22 年以降アニサキスやクドア・セブテンpunkタータによる食中毒事件は急増しています（図 1）。寄生虫性食中毒は今後さらに注意が必要です。



【写真 1：クドア・セブテンpunkタータ】
農林水産省 HP より

【表 1：全国の食中毒発生件数 病因物質別トップ 5】

病因物質	発生件数(患者数)
カンピロバクター	306 (1,893)
ノロウイルス	293 (10,506)
アニサキス	79(79)
植物性自然毒	48(235)
クドア・セブテンpunkタータ	43 (429)



【図 1：平成 15~26 年アニサキス及びクドア・セブテンpunkタータによる食中毒】